敬愛大学 地域連携センター 特別講座

第４回 英語教師授業力 ブラッシュアップセミナー

【テーマ】

児童生徒の可能性を切り拓く英語指導のあり方

～「いま」そして「これから」教師に求められること ～

受講者募集要項

【開催日】

令和2年8月24日（月）

4年間の学びを、力に変える大学。

敬愛大学
Keiai University

敬愛大学 地域連携センター 特別講座

第４回 英語教師授業力 ブラッシュアップセミナー

児童生徒の可能性を切り拓く英語指導のあり方

～「いま」そして「これから」教師に求められること ～

敬愛大学では今夏も、「第4回英語教師授業力ブラッシュアップセミナー」を開催いたします。

本セミナーでは、小学校では本年度から全面実施、中学校では来年度（2021年度）から全面実施、高等学校では令和4年度（2022年度）から学年進行で始まる新学習指導要領の着実な実施に向け、同学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」を外国語（英語）教育の側面から実現するために必要な知識とともに、授業で活用できる実践的な情報を提供させていただくことを目的としています。

4年目となる今回のセミナーでも、基調講演のほか、優れた英語教育を実践されている小・中・高等学校の先生方をお招きし、求められる授業指導や学習評価の具体的なアイディアやヒントを提供いたします。

お忙しい時期かと存じますが、9月以降の更なる授業改善のために、皆様のご参加をお待ちしております。

1. 主催　敬愛大学 地域連携センター
2. 協力　敬愛大学 英語教育開発センター
3. 後援(申請中)　千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉県私立中学高等学校協会
4. 対象　国公私立小学校教員、中・高等学校英語担当教員、教育委員会等英語担当指導主事 等
5. 日時　令和2年8月24日（月） 10:00～17:00
6. 日程

10:00～10:10	開会行事	主催者挨拶
10:10～11:50 （100分）	授業実践 （小学校）	小学校英語－やはり大事な「指導と評価の一体化」！ ～担任教師が行う英語授業とその中で実施される活動に応じた評価を考える 佐藤裕子（船橋市教育委員会指導課 英語担当指導主事） 林　次郎（敬愛大学国際学部特任教授） 佐藤佳子（敬愛大学国際学部准教授）
11:50～12:40	昼食・休憩	※学食は営業しませんので、各自ご用意ください。
12:40～13:30 （50分）	基調講演	今すぐ、そしてこれから求められる英語力の育成に向けて ～逆境でも英語教育で忘れてはならないこと 向後秀明（敬愛大学英語教育開発センター長、国際学部教授）
13:40～15:10 （90分）	授業実践 （中学校）	どんな生徒の英語力もグングン伸ばす指導法を目指して ～知的好奇心をベースにした自律学習者の育成 川村光一（栄東中学・高等学校教諭、「橋架村塾」塾長）
15:25～16:55 （90分）	授業実践 （高等学校）	グローバル社会で求められる英語力の育成に向けて ～新学習指導要領が求める英語授業力とは何か 塚本裕之（静岡県総合教育センター教育主幹・指導主事）

※本年度は1日開催とします。希望される講座を選んでご参加いただくことも可能です。

7. 主任講師　向後秀明　敬愛大学英語教育開発センター長、国際学部教授
（英語教育、英語科指導法、英語教育施策研究）

8. 会場　敬愛大学　稲毛キャンパス3号館　（千葉市稲毛区穴川1-5-21）
※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

9. 受講料　1,000円
※申し込み後、7月1日以降に受講案内と一緒にコンビニエンスストアでお支払いいただける納付書を郵送いたします。8月23日までにお支払いください。

10. 定員　各講座とも 80名

11. 申込み　8月3日（月）までに、webフォーム（携帯端末の方は右のQRコードから）、またはFAX（募集要項に同封）でお申し込みください。
webフォーム　https://forms.gle/aoqqu5v1HUDL8wqn7

12. 問合せ　敬愛大学地域連携センター（担当：藤森）
電話　043-251-6364　　FAX　043-284-2381
メール　crc@u-keiai.ac.jp

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本セミナーを中止することがございます。
開催可否は、令和2年7月1日（水）に本学ホームページ（http://www.u-keiai.ac.jp/）にてお知らせいたします。また、お申込時に頂戴したメールアドレス宛にも連絡いたします。

※昨年度用セミナーの報告を、本学ホームページに掲載しております。
https://www.u-keiai.ac.jp/keiai-topics/brushup2019/

【主任講師】向後秀明　敬愛大学英語教育開発センター長、国際学部教授
（英語教育、英語科指導法、英語教育施策研究）

元文部科学省初等中等教育局教育課程課・国際教育課外国語教育推進室教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官。千葉県立八千代高等学校、千葉市立稲毛高等学校、千葉県立千葉女子高等学校教諭を経て、2008～2009年度、千葉県教育庁教育振興部指導課指導主事。2010～2016年度、文部科学省を経て、2017年4月に本学教授に就任。2018年4月から、英語教育開発センター長兼務。

2005～2007年度、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SELHi）研究主任。2007年、パーマー賞（一般財団法人語学教育研究所）、2008年、千葉県教育奨励賞（千葉県教育委員会）受賞。著書に『新学習指導要領が実践できる！中学校英語授業パーフェクトガイド』（単著、2019年、学陽書房）、『平成30年版学習指導要領改訂のポイント　高等学校 外国語（英語）』（編著、2019年、明治図書）、『小学校教室英語ハンドブック』（共著、2019年、光村図書）、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　外国語編　英語編』（共著、2018年、文部科学省）など多数。

講座内容

◆基調講演　今すぐ、そしてこれから求められる英語力の育成に向けて （向後秀明）

大学入学共通テストにおける英語の民間資格・検定試験の導入見送り―英語教育が国会、国全体での議論にまで発展し、結局のところ仕切り直しとなりました。様々な考えがあって当然ですし、“正解”はなかったかもしれません。ただ個人的には、日本の英語教育が再び世界標準から外れていかなければいいが・・・と心配になる気持ちもあります。また、大学入試だけでなく、今でもスピーキング能力がほぼ問われない高校入試、五つの領域を育成しづらい教材等々、課題は山積しています。

しかし、児童生徒の可能性を切り拓いていくための英語教育という視点から、できないことを嘆き続けるのではなく、何であれば可能か、どこから始めていくべきかを考え、実践していくことが大切です。本講座では、日本において英語はどのような存在（位置付け）になっていくか、児童生徒が社会に出て求められる英語力とは何か、さらにそれらを踏まえた小・中・高等学校の英語教育の在り方について考えていきます。

◆授業実践（小学校） 小学校英語－やはり大事な「指導と評価の一体化」！ （佐藤裕子、林次郎、佐藤佳子）

本年4月に完全実施を迎えた新学習指導要領のもと、全国各地の小学校において中学年で外国語活動、高学年では教科としての外国語科への取り組みが始まりました。その中でまだまだ迷走を続けているのは、外国語活動、外国語科の授業の中で行われる評価です。

小学校英語の授業は児童の興味・関心を引き出し、それぞれの場面や状況での必然性を与えながら児童が笑顔で元気いっぱいのコミュニケーション活動を進められるように展開する、そこにブレはありませんが、そうした活動の中、どのように担任教師が評価を進めるかということこそ、今先生方が抱えておられる悩みであろうと思います。

本講座では昨年度に引き続き、具体的な評価の仕方にスポットをあててみます。小学校英語授業の進め方とその活動に応じた評価の在り方を考える機会としていただきたいと思います。

◆授業実践（中学校）　どんな生徒の英語力もグングン伸ばす指導法を目指して （川村光一）

生徒たちは、すでに中学校に上がる前から、英語の学力差があるのが現状です。だからこそ、一人一人の学習意欲が生徒各自の英語力アップに大きく影響していきます。小学校で培った英語の基礎を生かしつつ、4技能を絡めた段階的指導で生徒の学力を伸ばします。またコミュニケーション活動だけに偏ることなく、文法指導をきちんと行うのがさらなる飛躍の鍵です。今回は、語彙指導、コミュニケーション活動、文法、英作文指導等をインプット、アウトプット理論に基づきお話させていただきます。

◆授業実践（高等学校）　グローバル社会で求められる英語力の育成に向けて （塚本裕之）

平成30年3月に高等学校新学習指導要領が告示されました。ここでは、各学校において「何ができるようになるのか」の視点から生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確化すること、また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行うことが求められています。英語教育においては、告示に先んじて「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の設定及び英語による言語活動の充実が求められてきました。

本講座では、全ての生徒にグローバル社会で求められる英語力を育成することを目指し、CEFRを参考にしたCAN-DOリスト及びその活用に向けた静岡県の取組を紹介した上で、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業設計の在り方について共有します。また、新学習指導要領が求める英語授業を実践する上で、静岡県が抱えている課題を明確にするとともに、それを解決するために教師に求められている授業力について考えていきたいと思います。